

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600499		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム五島		
所在地	長崎県五島市大荒町1210		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年11月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年度に法人内のGHの理念を「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します。」に統一して取組をはじめました。本人・ご家族の希望を取り入れながら利用者のペースを維持しながら支援していくことを基本にケアを行っています。法人内では老健・グループホーム・有料老人ホームを運営し広域的な医療・看護・リハビリ・介護の提供に努めています。毎月職員の研修会を開催し知識や技術の向上に取り組みしており、研究発表会も開催され先進的な活動が行われています。また、老健と一部のグループホームでは認知症の維持・改善と予防に科学的に効果のある「くもん学習療法」を取り入れ、利用者のコミュニケーション機能、身辺自立機能などの前頭前野機能の維持・改善により効果が現れています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム五島は職員の離職も無く、入居が長いご利用者も多い。ご利用者が長年培って来られた“馴染みの生活”を大切にされており、移動の安全にも配慮しながら、廊下の行き来の空間を上手に造り上げている。馴染みのパロン風を壁に飾られたり、昔ながらの道具を置き、会話のきっかけにされている。“自分の家で味噌を作っていたので、ここで作りたい”“刃釜で焚いたご飯を食べたい”等のご利用者の要望も叶えており、ご利用者に指導してもらいながら“味噌作り”を行い、刃釜でご飯を炊くこともできた。ご利用者の表情が生き生きとされていたことに職員も感動を頂いた。施設長自身が釣って来られた魚が各ホームに届くことも多く、元漁師の方から調理の仕方を聞きながら、楽しい食事のひと時となっている。施設長の企画で、22年度から、法人内の“研究発表会”が行われており、1年間の取り組みの振り返りを行い、発表を行う事で、職員のモチベーションアップに繋がっている。時に流されるのではなく、1年1年の着実な節目にもなっている。今後も引き続き、“五島の昔ながらの生活”を行う機会を増やしていきたいと考えられており、お花が好きな方もおられるので、野菜やお花作りも増やしていく予定にされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体でGHとしての統一した理念をつくり取り組んでいる。また、朝礼時に唱和し理念を念頭に置いたケアに努めている。	以前、家にいた時にされていたことを再現できる機会を作っており、昔ながらの味噌作りも行い、お力を発揮して頂いた。元漁師の方からは魚料理を教えて頂くなど、その方の得意分野を引き出しながら、楽しみを持って生き生きとした生活ができるように努めてきた。馴染みの職員が多く、ご利用者との信頼関係もできている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入し会費を納めている。市の広報や回覧板も回り、地域の活動や空き缶拾い、清掃等にも参加している。	中庭でのミニ運動会、ザリガニ釣り大会の時には、近隣の方も参加して下さった。希望者は福江ねぶた祭や、市民大清掃(年2回)、空き缶拾い、福江まつり、チャンココ、出初め式などの地域行事に参加しており、ホームでも、津軽三味線や手品師、富江ババロア会、保育園児等との交流を楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不定期ではあるが、はあとケア(認知症を理解していただく機関誌)を近隣住民に配布。また、レクリエーション(ミニレク)への招待もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、事業実績並びに事業計画の報告を行い、年間の事業実績及び事業計画も盛り込んでいる。また、運営推進員の関心のある内容を盛り込むことで、参加しやすいように努めている。	同法人の3つのホームと合同で開催しており、地域情報も頂いている。消防署や警察署の方もゲストで参加頂き、良き勉強の場になっている。参加者の方が関心のある内容(救急救命)も行い、研究発表会の内容もお伝えしている。敬老会等、年に2回は行事の前に会議が行われ、行事にも参加頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席を要請し、事業所の実情並びにケアサービスの取組を伝え、意見をいただいている。	日々の運営に関する事で不明なことを市に相談すると、親身に対応下さっている。市の職員の方も顔見知りになっており、相談しやすい関係が作られている。運営推進会議の後の行事にも残って下さり、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、代表者及び全ての職員が禁止の対象となる具体的な行為の理解と研修を重ね身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関の施錠に関しては、夜間を除き日中は開放し、行動の制限をしないケアを行っている。	ご家族には、身体拘束とそのリスクについて説明している。身体拘束を行わない指針及びマニュアルもあり、研修を通して職員の意識づけも行われている。日常の中でご本人の思いを把握し、好きなように行動して頂けるような支援が続けられており、お1人で玄関の外を散歩されるなど、自由に過ごして頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての研修会を開催し、虐待行為が見過ごされることがないよう注意を払い、その防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会を行い、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはできる限り本人・家族の意見を尊重しながら、専門用語等を控え、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等において家族等の意見を取り入れるよう努め、法人としても第三者委員を設置しており、利用者やご家族の意見を運営に反映させる体制を取っている。	担当職員が、ご家族に毎月お手紙を書かれており、面会時に日頃の様子をお伝えしようとすると、「お手紙を読んでよく理解できてます」と言って下さる方もおられる。ご本人との会話の中から、「味噌作りをしたい」「刃釜で焚いたご飯を食べたい」等の要望があり、昔取った杵柄を發揮して頂き、皆さんが生き生きとされていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任者会議や職員会議、カンファレンス等にも代表者が参加し、職員の意見を聞いている。置き去りにすることなく業務へ反映している。	勤務年数が長い職員も多い。意見やアイデアは豊富で、季節の飾りや行事企画等も活発に意見が出されており、チームワークも更に良くなっている。3か月に1度は各事業所の副主任による会議を開催し、職員の意見をできる限り反映させる仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、資格手当、有給休暇などの労働条件も厚遇されており、体調不良時や忌引き等の対応にも考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH内、法人内と積極的に研修を行い、質の向上に努めている。各種研修会の参加なども積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加し交流を深め、お互いに研鑽しながら業務に生かしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を知り理解することから始め職員も理解してもらえるよう努めている。おのずと必要なこと、要望・不安が見えてくる。それが支援につながり、コミュニケーションを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の様子・状態を細かく報告し家族からの意見要望等を聞き入れる。まず、家族が職員に話しやすい関係づくり、信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者は「ここはどこ」と不安でいっぱいである。まず、ここは安全で安心できる所だと体と心で伝える。具体的な支援は家族の話、サマリー、本人の状態を見て必要な部分から始める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」に視点を置いた支援を積み重ねることで、利用者・職員間の信頼関係も深まり、利用者の意欲や生き甲斐に繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHでの支援は職員のみがするのではなく、家族とともに共同で支援していくという考え方を説明し支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人は家族との関わりが多く、家族にも協力を得ている。墓参りや知人宅への訪問など実現できるよう支援している。	「自宅にツワを取りに行きたい」という希望を叶えることができた。ツワは、ご利用者全員で剥いて、昔ながらの料理方法で調理し、美味しく食べる事ができた。馴染みの祭り見学も大切にしており、ねぶた祭り見学に夜行くと「青年団に戻った」と喜ばれる方もおられ、「出初式」にも参加し、元消防団だった方に喜んで頂いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いにお世話をしたり、してもらったりと実に関係が良好である。お互いが相手を尊重するという考えで生活している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、行事などへお誘いし交流関係を継続している。入院等のケースは見舞いや訪問を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あらゆる場面で「自己決定」ができるように支援している。そのためにもわかりやすく、ゆっくりと、傾聴の態度で接し、表情や心の観察に努めている。	食事中やお風呂の時なども含めて、ご利用者の思いを把握するよう努めている。ご利用者への声かけを多くし、表情や気持ちを汲みとるようにしている。「これがしたい」という思いがあらわれるが、遠慮等がある場合は、お気持ちを察して外出等にお誘いしたり、願いを叶えるように努めている。	外出は着実に増えているが、更に外出を増やしていきたいと考えている。個別の思いを把握しながら、五島の昔の写真集と一緒に見たり、歴史資料館に行く機会も作り、五島の暮らしを年表にしていく等の取り組みも行っていく予定にしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴の把握に努め(本人・家族からの聞き取り)これまで継続してきたこと・趣味活動など出来る限り続けていけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれに自分の時間・ペースを大切にしている。食事・入浴・排泄など生活のリズムを崩さないように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスとモニタリングを全職員で行い介護計画を作成している。状態の変化や家族の希望などはその都度対応している。	ご本人やご家族の要望を伺い、“食事が食べれるように”“洗濯物たたみ”“食事の用意・片付け”“水やり”“新聞折り”“編み物”“外出”等が計画に盛り込まれており、できる限り、日々の生活に取り入れるようにしている。評価は職員全員で行っており、医師や母体施設のOTにも意見を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌によりバイタル、食事量、入浴の有無、排便、必要な人は排尿、水分量、体重を記録し介護に生かしている。介護記録には、病院受診、身体状況の変化やその日の状態を詳細に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態を的確に把握し、「今」必要なサービスを暫定的にケアの中に取り入れるなど柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の回覧板や広報を活用し、地域行事やイベントに積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を受け入れ、かかりつけ医を決定している。また症状に応じ適切な医療が受けられるように病院との連携を図っている。	定期受診にはケアマネが同行し、受診結果についてはご家族と共有し、急を要する場合は、医師からの説明と一緒に聞いて頂くこともある。病院で顔馴染みになった医師がパンを買ってホームに遊びに来て下さり、職員も嬉しく思った。早期発見にも努めており、母体施設の看護師とも連携がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師は専従してはいないが、母体の老健看護師の協力を得ている。職員で判断できない場合は指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては介護サマリーを提出し、治療はもちろんのこと生活全般のフォローも行っている。入院期間中は居室を2週間確保しており、安心して治療の受けられる体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、本人・家族と話し合い、法人全体でできることを説明しながら、かかりつけ医等との協力を得ながら対応している。	4年前にホームでの看取りケアが行われた。医療面での安心もあり、「最期は病院で…」と希望される方も多いが、ホームで対応できることは精一杯させて頂いている。ご利用者からは「ここがいい」と言う言葉も聞かれ、風邪を引かないように意識して過ごされている方もおられる。お一人お一人、どのように過ごすことが幸せなのかを、職員全員で考えており、ご家族と過ごせる時間も大切にされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えて、緊急時の対応マニュアルを作成し、連絡体制及びマニュアルに基づいて対応できるように日頃から実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、風水害等の災害における避難訓練を実施し、近隣住民の協力体制も整備されている。	23年3月と6月は、消防署の方と夜間想定訓練を行い、手作りの頭巾をかぶり、ご利用者も一緒に火災時(台風時)の訓練を行った。年に2~3回は自主訓練しており、地域の方も参加して下さっている。町内の消防団とも災害時の協力体制ができており、備蓄もホーム内に行い、母体施設の方でも行っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員である前に人として社会人としての義務であり、そのことを念頭においてケアにあたっている。	職員もご利用者も馴染みの関係になっているが、オムツ交換時やトイレ使用時にはドアを閉める配慮を行っている。言葉遣いについても、スタッフ会議やカンファレンスで職員同士で確認しており、書類の管理含めて、全職員が徹底できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あくまでも利用者本人による自己決定を原則とし、決定に戸惑い等が見られる場合には、本人の心を傷つけないよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれに自分のペースというものが、職員側の都合を優先することなく、本人のペースを維持するよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いくつになっても「身だしなみは出来る限り自分で」という方針で支援している。そのことが生活のリズムを整え自分らしさを作ると考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ツワや竹の子などは、皮むきをすることで楽しさを味わい、懐かしさを感じ、一緒に食事することで共に生活しているという実感を味わえている。	献立への要望を伺い、買い出し、下ごしらえ、盛り付け等をして頂いている。懐かしい芋料理が好評で、“芋ご飯”“芋のおやつ”など、食卓に登場している。プランターで育てたネギやゴーヤを食材として使っており、職員が自宅で寒天等を作り、美味しく食べられている。職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取量に注意し、特に水分については、脱水予防の観点から状態を考慮しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後は口腔ケアを実施している。口腔ケアの徹底が、嚥下状態の維持につながり誤嚥の防止にも影響している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者本人の力や排泄パターンを理解し根気よく説明し自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を大切にしており、紙パンツへの依存が強い方にも、根気強くご本人の不安に寄り添い、トイレ誘導をする事で、布パンツに変更する事ができた。職員から褒められる事が嬉しくて、自分に自信が付き、「外に行こう」と言う明るい言葉まで聞かれるようになった。他の方も、昼間は全員、布パンツを着用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物については利用者の好きな食べ物である芋を活用したり、便秘の原因である水分や運動についても工夫し、個別の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望する時間に出来る限り入浴が出来るように支援している。	「温泉の風呂より、ここの風呂の方が安心」と言って下さる方も多い。18時頃まで入浴可能だが、明るい時間に入浴する習慣の方が多く、夕方以降の希望者はおられない。みかんの皮を浮かべたり、職員との会話も楽しんでいる。退院直後の不安が強い方は、レベル確認も目的に2人で介助を行い、安心して頂くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活のリズムに合わせ安心して眠れるよう配慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重大さを理解して事故のなよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴等を把握した上で一人ひとりの役割を発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は利用者の気分転換にもなることから、出来る限り本人の要望にも応えている。また、家族の協力を得ながら支援している。	外出にはご家族の協力もあり、自宅の芝桜やツツジ畑、お墓参りにも一緒に行かれている。三井楽の灯台、自宅のある富江、岐宿、玉之浦等、旧福江市以外の町にも出かけ、念願の、港にある“グラスボード”に乗り、海底を見て楽しむ事もできた。買い物や花見等、希望に添った個別の外出も楽しんでいる。	



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方はその能力に応じて管理している。例え少しでもよいかから自分でお金を持ちたいという気持ちを大切に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ手紙や葉書を出したり、電話するなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏には遮光ネットを張り、ヘチマを栽培して暑さを防ぎ、生育したものを食している。季節感を共用の空間に飾るように心掛けている。	四季折々の花や木々を飾り、季節感を演出されており、主任が書道で書かれた歌も廊下に貼られている。小さかった金魚も大きく成長し、めだかと共に、ご利用者の癒しとなっている。昔の懐かしいものに興味を持たれることから、昔使われていた道具が廊下に置かれ、日々の話題の一つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビング室のソファ以外にも2～3人掛けのイスやソファを準備し、思い思いに過ごせる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	バラモン風を壁に飾ったり、家から持ってきた植木を今でも育てている。また、家族が持ってきた日めくりカレンダーを毎日楽しみにしている。	ドアの入り口には花を飾ったり、室内に写真を飾り、ご自分の部屋とわかるように工夫されている。職員手作りの収納箱は長年愛用されており、物の収納にも重宝している。持ち込みが少ない方には、飾り物や植木で緑を多くする等の工夫をしており、お位牌、洋服、帽子、馴染みの釣り道具を持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く安全で、手摺りが設置されているので自立した歩行・生活が可能となっている。		

事業所名: グループホーム五島

作成日: 平成 23 年 12 月 7 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1-1	経験したこと、家に居たときのこと、思い出を話したり、見たり、行ったりしながら、利用者の歴史づくりに取り組んでみたい。	馴染みの場所への外出支援	①馴染みの場所への外出支援 (自宅・自宅付近・道・散髪屋・小店等) ・懐かしい人との再会の実現 ・仕事をした場所への外出支援	12 ヶ月
2	1-2		歴史資料館への外出支援	②昔、使った色々な道具の見学支援	12 ヶ月
3	1-3		家にいた頃、若い頃の話によりコミュニケーションを図る	③それぞれの年代、流行した歌などを一緒に歌う ・会話をしたり、昔の生活の様子を知る ・馴染みの品を使って得意なことをする。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月